

ローカルなマテリアルのデザイン



広葉樹の香りと色をデザインする

現在、水源地や里山地域の抱える問題として広葉樹に関する問題があります。神奈川の森林の約6割を占めるのは広葉樹ですが、針葉樹と比べて曲がっており、同樹種でも色や形が違うことから現代建築には使いにくく、さらに広葉樹は市場に出回っていないため流通が悪いという課題もあります。今回、私たちのプロジェクトでは、そんな広葉樹の特徴を知ることから始めるため、広葉樹というマテリアルをデザインすることに一貫して取り組んできました。

まず、林業家の方から実際にお話を聞き、そこで得た知識から、学内の楠からルームフレグランスを作りました。楠の樟脳の香りと調和する組み合わせを何通りも実験し、その中から3つのフレグランスを常盤祭で販売しました。このフレグランスの販売により、学外の方々に私たちの取り組みや木材の香りを知ってもらうことができました。この活動を知った南三陸町の方々には、できる産業が少ない冬でも、お土産や物産になるかもしれないと興味を持っていただけました。他にも、学内の銀杏や紅葉から色を抽出して広葉樹染めにも取り組みました。さらに、学内に落ちているどんぐりを拾い集めて抽出した染色液を用いて染め物をしました。ここでは、どのような染色剤を用いるとどのような色になるか、という実験をくりかえしました。今後の取り組みとして、ルームフレグランスと広葉樹染め共に、YNUグッズとして販売することを目標として活動します。その製作にあたり、フレグランスは、その商品に含まれる広葉樹に関する情報を盛り込むこと、広葉樹染めに関しては、オープンキャンパスに来る受験生に向けて、お守りとして販売することを企画する予定です。

こうした活動により、水源地や里山の実際に調査した現状や問題点を都市の人に伝えることをめざして取り組んでいきます。

- 学生：5名（榊原真歩 藤田拓海 竹島マリナ 谷口祐希 汪世佳）/担当教員：志村真紀
- 連携・協力：杉山精一（林業家）
- サイト：Instagram: タグ「#ローカルなマテリアルpj」